

# 外国語

## 研究テーマの設定

外国語部門では「思考力・判断力・表現力等」の評価法(テストアイテム、タスク等)及び指導法について、「聞くこと」、「読むこと」、及び「話すこと」と「書くこと」の三つの枠組で研究テーマを設定した。学校現場での「指導と評価の一体化」の実現に資するために、具体的な指導法や(言語)活動を考案・実践するとともに、それぞれの評価方法についても研究対象とした。

### ■「聞くこと」

#### 1 研究のテーマ

##### (1) 研究テーマ

「聞くこと」における「思考力・判断力・表現力等」の評価法(テストアイテム、タスク等)及び指導法

##### (2) 研究のねらい

生成AIを用いたリスニング用の文章作成と、読み上げソフトを用いた文章の音声化について、その効率的かつ効果的な活用方法を見つける。また、作成した教材を用いた授業実践やテストの実施を通して、生徒の学習への効果の検証と、今後に向けた課題の分析を行う。

#### 2 実践事例

##### (1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：英語コミュニケーションⅠ

イ 単元名：Unit 6 What are the qualities of a good leader?

(ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATIONⅠ 東京書籍)

##### ウ 単元の目標

- ・優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞き、その概要や具体例の説明などの要点、詳細を、必要に応じてメモを取りながら聞き取ることができる。
- ・優れたリーダーの資質について、原稿に頼らず自分の言葉でスピーチをすることができる。

##### エ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	[知識]文章を聞き取るために必要となる語彙や表現を理解している。	自分の考えを発表するために、優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分の考えを発表するために、優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞いて、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。 情報を聞き取るために、メモの取り方を工夫し、改善しようとしている。
	[技能]優れたリーダーの資質についての説明を聞き取る技能を身に付けている。		
話すこと [発表]	[知識]優れたリーダーの資質についてのスピーチをするための語彙や表現を身に付けている。	聞き手が理解しやすいように、自分が取り上げた優れたリーダーと、その資質について、具体例を示しながらスピーチを行うことができる。	聞き手が理解しやすいように、自分が取り上げた優れたリーダーと、その資質について、具体例を示しながらスピーチを行おうとしている。
	[技能]優れたリーダーの資質についてのスピーチをする技能を身に付けている。		

##### オ ゴールタスク(パフォーマンステスト)

- ・話すこと [発表]

「私が尊敬するリーダー」について3分間のスピーチを行い、動画で提出する。

##### カ 単元の指導と評価の計画(8時間)

(○…「記録に残す評価」 ●…「指導に生かす評価」)

表中「○」「●」が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認する。)

時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポートフォリオに、自己の単元目標を書く。(Google ドキュメントを使用。)</li> <li>・優れたリーダーの八つの資質についての記事を読み、理解した内容について自分の意見を伝え合う。</li> <li>・自分の身の回りにいる優れたリーダーと、その資質についてペアで伝え合う。</li> <li>・田部井 淳子(登山家)を取り上げた、優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞き、内容についてメモを取る。</li> <li>・ゴールタスクのスピーチに役立つような語彙や表現をスクリプトから探す。発音を確認する。</li> </ul>				<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の目標を達成するために、どのような学習態度が期待されるかを説明する。</li> <li>・ゴールタスク(パフォーマンステスト)やペーパーテストについて丁寧に説明する。そこで力を発揮するために、単元を通してどのように学習に取り組みたいかを考えさせる。</li> <li>・自己の単元目標を意識して主体的に学習に取り組むことができるようポートフォリオを活用して支援する。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の本文を読むために必要な語彙や背景知識を知る。</li> <li>・ネルソン・マンデラを取り上げた、優れたリーダーの資質についての本文を読み、理解した内容について自分の意見を伝え合う。</li> <li>・ゴールタスクのスピーチに役立つような語彙や表現を本文から探す。発音を確認する。</li> <li>・本文の文構造などについて理解する。</li> </ul>				<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の内容理解のため文構造が複雑な文について解説する。</li> <li>・授業内での本文の理解には個人差があるため、最後に日本語訳を配付する。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●前時までまでに習った語彙の小テストに取り組む。</li> <li>・自分のリーダーとしての成功体験とその理由について伝え合う。</li> <li>・優れたリーダーの資質についてのスピーチを、メモを取りながら聞き、理解した内容について情報を伝え合う。</li> <li>・ゴールタスクのスピーチに役立つような語彙や表現をスクリプトから探す。発音を確認する。</li> </ul>	●			<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●(知)語彙の定着度を確認し、再度授業で復習させるかを判断する。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールタスクのスピーチの準備をする。</li> </ul>				
5	<p><b>本時</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールタスクのスピーチ原案をグループ内で発表する。(スライド有り。)</li> <li>・各グループでベストスピーカーを選ぶ。選んだスピーチをより良くするために意見を出し合う。</li> </ul>				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループのベストスピーカーがクラス全員の前でスピーチを行う。</li> <li>・聞き手は、内容と語彙や表現についてメモを取りながら聞く。理解した内容について概要や要点を伝え合う。</li> </ul>				<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベストスピーカーのスピーチを聞いてメモした語彙や表現を、ゴールタスクのスピーチで真似して使うよう指導する。</li> </ul>

7	○ゴールタスク(パフォーマンステスト) ・ゴールタスクのスピーチを各自撮影し、提出する。(スライド無し。) ○ポートフォリオに単元の学習の振り返りを記入する。		○	○	[評価] ○(思)(態)動画で提出されたスピーチをルーブリックに基づいて評価する。 ○(態)ポートフォリオの記述から、生徒の行動(メモの取り方など)や意識の変化を見取る。
後日	○ペーパーテスト ・スピーチのディクテーションを行う。(授業) ・優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞いて、概要や要点の理解を問う多肢選択問題に取り組む。(定期テスト)	○	○		[評価] ○(知)学んだ表現の音と文字を結びつける技能を評価する。 ○(思)スピーチを聞いて概要や要点、詳細を整理して捉える力を評価する。

キ 授業実践例(5時間目/8時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	
1. 導入	○ウォームアップ ・ペアでインタビューをし、互いの興味・関心、考えを知る。 (「論理・表現I」で学習した関係代名詞を使い、疑問文のリストを作成し、使用させる。)
2. 展開	○リスニング活動 ・「私が尊敬するリーダー」についてのモデルスピーチを聞き、要点と例についてメモを取る。 (モデルスピーチの話題には、生徒にとって身近な、在籍校にいる優れたリーダー達を取り上げる。生成AIを活用して、スピーチの構成や表現などが単元で学習した言語の形式と同じになるように、スクリプトを作成する。音声作成用アプリケーションを用いて音声ファイルを作成する。音声ファイルは、生徒が繰り返し聞けるよう学習用コミュニケーションツールで共有する。) ○スピーチ活動の準備 ・四人グループ内で行うスピーチ活動の流れと心構えを全体で確認する。 (スピーチの評価基準やポイントを事前に明確に知らせる。) ○スピーチ活動 (1)スライドを示しながら、「私が尊敬するリーダー」についての3分間スピーチを一人ひとり行う。聞き手は要点と例についてメモを取る。 (2)グループのベストスピーカーを選ぶ。 (スピーチの良かったところを、評価の基準やポイントに即して具体的に話し手に伝えるよう指導する。) (3)選んだスピーチをより良くするためにグループ内で意見を出し合う。
3. まとめ	○ポートフォリオの記入 ・本時の学習の振り返りを記入する。 (自己の単元目標を意識して主体的に学習に取り組むことができるよう支援する。)

研究実施校：神奈川県立柏陽高等学校(全日制)

実施日：令和5年10月27日(金)

授業担当者：佐藤 亮介 教諭

(2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

ChatGPTなどの生成AIを活用すれば、教科書の本文と関連のあるテーマについて、教科書の本文と同様の構成でテキストを作成することが、より簡単にできる。テキストの語数や語彙レベルも、生徒の習熟度に合わせて自由に設定できる。また、授業で指導したポイントを含み、指導した言語材料を使用したテキストを作成することもできる。ChatGPTなどの生成AIを活用すれば教員の教材作成の負担が減るので、授業内で複数のテキストを使用し、英文の読み方や聞き方、ターゲット文法などを繰り返し学習させることが可能になる。また、指導した内容と一貫性がある評価テストを作成することができる。以下、ChatGPTなどの生成AIを活用したリスニング教材の作成、本單元における「聞くこと」の指導・活動及び評価について示す。

## ア スクリプトの作成

生成A I、ChatGPT を活用したスクリプト作成の試行錯誤を経て、図1のように指示をすると良いことが分かった。語数の目安、スピーカーの名前、そして、スピーチの内容として話してほしい要素を箇条書きで入力した。

また、生成されたものは、語彙・文法のレベルが高すぎる 경우가多く、図2のように、「英語レベルをCEFRのA2に調整してください。」などの追加指示を与え、レベルを調整した。ただし、正確にCEFRのA2のレベルで生成されているか疑わしいものもあり、レベル調整の指示に関しては、さらに検証を続ける必要がある。

最後に、生成されたテキストの表現と内容に授業者が手直しを加えて完成させた。

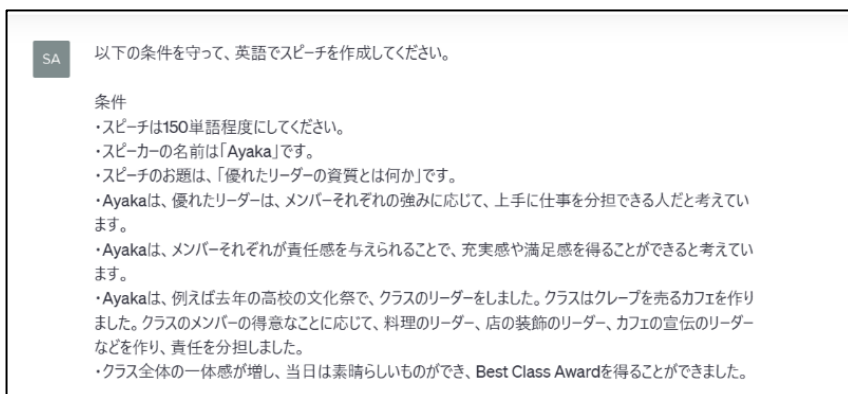


図1 ChatGPT への指示



図2 ChatGPT への追加指示とその生成文章

## イ 音声ファイルの作成

アの手順で作成したスクリプトの文字データを使い、アプリケーション ElevenLabs を用いて音声ファイルを作成した (ElevenLabs での音声ファイルの作成は有料)。音声ファイルは、授業での使用だけでなく、生徒が授業以外でも繰り返し聞くことができるよう、学習用コミュニケーションツールで共有した。TTS Reader や Natural Reader といった、無料で英文の読み上げができるウェブサイトもあることが分かった。

## ウ 授業で行ったリスニング活動

ア、イの手順で作成した優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞いて、図3の表に「リーダーの名前」、「資質」、「具体例」についてメモを取る活動に取り組みさせた。グラフィックオーガナイザーで聞き取りのポイントを示すことで支援を行った。また、メモの取り方について指導した。

【1】 (Model Speech) 理解度 < >%		
【Who?】 Leader の名前	【Quality】 性質・人柄	【Example】 具体例

図3 ハンドアウトの一部

## エ 後日行ったペーパーテスト(リスニングテスト)

ア、イの手順で作成した優れたリーダーの資質についてのスピーチを聞いて、「聞くこと」における「知識・技能」を評価するディクテーション、「思考・判断・表現」を評価する概要理解問題(4択選択問題)に取り組みさせた。「思考・判断・表現」を評価する概要理解問題の選択肢については、ChatGPT が生成したものは、誤答選択肢が明らかに誤りとわかるものであったため、手直しをした。

リスニングテスト及び音声のスクリプトの事例は、総合教育センターウェブサイトにてダウンロードできる。(「高等学校英語教員のための評価事例集 聞くこと 読むこと編」)

### (3) 結果の検証

#### ア リスニングテストの結果

- (ア) 受験人数：115 人  
(イ) 平均点：5.77/6 点(小数点第3位を四捨五入)

#### イ 生徒へのアンケートの実施内容と結果

- (ア) 実施方法：アンケート(4件法及び自由記述式)  
(イ) 調査人数：116名(英語コミュニケーションI)  
(ウ) 調査時期：12月初旬(本単元終了後)  
(エ) 質問内容と結果：質問項目1～4

質問項目1. 皆さんが一番伸ばしたい英語の技能は次のうちどれですか。

選択肢	聞く力	読む力	話す力	書く力
割合	19.0%	26.7%	45.7%	8.6%

質問項目2. Unit 6で行ったリスニング活動(AIが生成した音声、クラスメートのプレゼンテーション、ALTによるスピーチを聞いてメモを取る)を通して、聞く力は伸びたと感じますか。

選択肢	とても感じる	まあまあ感じる	あまり感じない	感じない
割合	18.1%	68.1%	12.9%	0.9%

質問項目3. 2の回答の理由を教えてください。

○「とても感じる」、「まあまあ感じる」と答えた生徒

- ・メモをとることでより集中してスピーチを聞くようになったから。
- ・数回の授業だけでは力はぐんと伸びるわけではないけれど、これを続けていけば必ず伸びると思う。聞くだけでなく、語彙などをリスニングを通して学ぶことはとても大切だと思う。
- ・活動自体はすごくいいものだと思うし、ネイティブの英語に馴染むことができると思うけど、それだけじゃなくて、単語やフレーズの暗記もしていけないといけないと感じる。
- ・自分でもスピーチをするので、モデルスピーチや他の人のスピーチ、先生のスピーチの内容を理解しやすく、また真似したいフレーズも知ることができたから。実際に模試や定期テストでもリスニングの点数が上がった。

○「あまり感じない」、「感じない」と答えた生徒

- ・単語を聞き取って、何となくで解答してるから。
- ・どっかの大学のリスニングを解いて解説の方がいい。
- ・沢山聞いて耳を慣らしても分からないものは分からない。
- ・正直数回やっただけだと明確に成長は感じませんでしたが、継続していくと力になるとは感じました。

質問項目4. 聞くことに関して何が難しいと感じていますか。

- ・単語同士のつながりの部分が聞こえないことが多いのでそこを想像で聞き取るのが難しい。
- ・単語帳を見て出てきた動詞が変形していたりすると脳が認識しないことがある。
- ・相手が言ったことを聞きながら記憶すること。
- ・長い音声を聞くとき、最初に読まれた内容を忘れてしまったり、集中力が続かないこと。
- ・1度分からなくなってしまうとその後焦って聞き取れなくなるところ。

#### ウ 考察

リスニング力の伸長について、事前と事後の比較はできないが、本単元の指導後に実施したリスニングテストの平均点が5.77/6点と高いことから、生成AIを活用したリスニング指導が多少なりとも効果があったのではないかと考える。

アンケートの質問項目1の結果より、聞く力の伸長を19.0%の生徒が望んでいることが分かった。質問項目2の結果より、AIが生成した音声、クラスメートのプレゼンテーションやALTによるスピーチを聞いてメモを取るといったリスニング活動を通して、聞く力は伸びたと感じている生徒の割合は86.2%（「とても感じる」と「まあまあ感じる」）であり、多くの生徒がリスニング力の伸長を実感している。

質問項目3の「これを続けていけば必ず伸びる」や、「実際に模試や定期テストでもリスニングの点数が上がった」のコメントの他、授業中の生徒の発言に「単元を通して、リーダーシップに関するスピーチを嫌になるほど聞いたので慣れました」とあったことから、教科書の本文のトピックや構成、設定などを意識して教

材を作成し、繰り返し聞かせることで、着実に力をつけさせることができると実感した。

質問項目3の「ネイティブの英語に馴染むことができる」や「自分でもスピーチをするので、モデルスピーチや他の人のスピーチ、先生のスピーチの内容を理解しやすく、また真似したいフレーズも知ることができた」のコメントから、自分のスピーチに直接役立つ内容の、ネイティブに近い英語音声をたくさん聞くことができたことに満足している生徒がいることが分かった。リスニングの問題集やインターネット上にある英語音声の中から、生徒のレベルに合った、特定のトピックに関する音声を探し出すことは困難であり、その点でも、生成AIを用いて生徒のニーズに合った教材を作成することの有用性があると考えます。一方で、生徒によっては、英語のレベルが高すぎて力が伸びないと感じており、生徒それぞれのレベルに応じた指導については、今後方策を見つけていきたい。

質問項目4の「聞くことに関して何が難しいと感じていますか」の質問に対しては、多くの生徒が「単語同士のつながり」や「動詞が変形」などを挙げており、英語の音声に関するリスニングのボトムアップの指導についても、今後生成AIの可能性を探っていきたい。また、「聞きながら記憶」、「内容を忘れてしまった」や「集中力」、「焦って」などの回答をする生徒もおり、英語のマイクロスキル以外の要素も生徒の困りごととして挙げられており、リスニングの方略などについての指導も大切であることが分かった。

### 3 まとめ

生成AIを活用することで、目の前の生徒の興味・関心に合わせた教材が作成でき、生徒がより楽しんで活動に取り組むことができるという意見が研究協議においてあった。リスニング教材用のテキストや音声を作成する過程で、作成側の私たちも目新しさから教材作りを楽しむことができた。生成AIの教育的活用には多くの可能性を感じる。しかし、AIによる生成物は本来のコミュニケーションの場で発せられる英語とはまだ異なる点も多くあり、生成AIの活用による学びと人間同士のリアルなコミュニケーションでの学びとのバランスを取り、試行錯誤していきたい。

また、生成AIや音声作成用アプリケーションには欠点もあることを忘れないようにしたい。指示する側が意図した内容を、AIが完璧にくみ取ることにはないので、生成された文章を毎回手直ししなければならない。AIが生成したテキストに、手を加えることは必須である。また、大事な情報部分を繰り返したり、強調して発音したり、ゆっくり話したりということを音声作成用アプリケーションがしてくれることはない。これらのことを理解した上で、教員が各学校の実態に応じて生成AIを有効に活用すべきだと考える。今後、多くの学校の実践例やアイデアを共有し、神奈川県全体の英語教育が発展していくことが楽しみである。

■「読むこと」

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「読むこと」における「思考力・判断力・表現力等」の評価法(テストアイテム、タスク等)及び指導法

(2) 研究のねらい

指導と評価の一体化の観点から、単元のゴールタスクを踏まえたリーディング活動の指導とその評価を実施し、生徒に対する学習効果の検証と今後に向けた課題の分析を行う。なお、上記取組を支えるものとして、生成A I の効率的かつ効果的な活用を模索し、今後の可能性についても検証を行う。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：英語コミュニケーション I

イ 単元名：Lesson 6 Thomas the Tank Engine and SDGs

(FLEX ENGLISH COMMUNICATION I 増進堂)

ウ 単元の目標

- ・社会的な話題(SDGs)について、身近な話題(アニメ)を通して説明する文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えることができる。
- ・聞き手が理解しやすいように、社会的な話題(SDGs)についての情報や考えを、身近な話題(アニメ)を通して話して伝えることができる。

エ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	[知識] 文章を読み取るために必要となる語彙や表現を理解している。	自分の考えを発表するために、社会的な話題(SDGs)についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えている。	自分の考えを発表するために、社会的な話題(SDGs)についての説明文を読んで、概要や要点、詳細を整理して捉えようとしている。
	[技能] SDGs についての説明文を読み取る技能を身に付けている。		
話すこと [発表]	[知識] SDGs について話して伝えるための語彙や表現、音声等を理解している。	聞き手が理解しやすいように、社会的な話題(SDGs)についての情報や考えを、身近な話題(アニメ)を通して話して伝えることができる。	聞き手が理解しやすいように、社会的な話題(SDGs)についての情報や考えを、身近な話題(アニメ)を通して話して伝えようとしている。
	[技能] SDGs について話して伝えるための技能を身に付けている。		

オ ゴールタスク(パフォーマンステスト)

- ・話すこと [発表]

ポスターを示しながら、SDGs の1つのゴールについて、自分が選んだアニメを通して説明する。

カ 単元の指導と評価の計画(8時間)

(○…「記録に残す評価」)

表中「○」が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認する。) )

時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールタスクについて理解し、自分の単元の目標を冊子型のワークシートに記入する。</li> </ul> [Pre-reading] <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs の概念と身近な事例を結びつけた英語のかるた遊びをする。</li> </ul>				[指導] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールタスクの内容、実施方法、評価基準などを説明し、単元を通してどのように学習を進めていくかを考えられるよう支援する。</li> </ul>

2	[While-reading 1] ・SDG sに関する教科書本文を Part 1～4まで通してスキミングし、各パートのタイトルを選ぶ問題に解答する。				[指導] ・テキストの構成について指導する。
3 4 5 本 時 6	[While-reading 2] ・パートごと以下の活動に取り組む。 ・新出語彙と「target grammar」を確認する。 ・英文を読み、内容理解問題に取り組む。 ・英文に関連する写真の情報をペアで話して伝える。 ・英文からゴールタスクに役立ちそうな語彙や表現を探しメモする。				[指導] ・テキストの構成や言語的な特徴などについて指導する。 ・教師が教科書の英文の文構造を解説する動画をロイロノートで共有する。必要に応じて授業外で視聴させ、生徒の理解を支援する。
7	[Post-reading] ・教科書の英文の内容、構成や表現を参考に、発表の原稿を書く。 ○ゴールタスク(パフォーマンステスト) ・ポスターを示しながら、SDG sの一つのゴールについて、アニメを通して説明する。各自撮影し提出する。		○	○	[評価] ○(思)(態)ルーブリックに基づいて評価する。
8	○ペーパーテスト ・SDG sについての英文を読んで、概要や要点の理解を問う多肢選択問題に取り組む。 ・冊子型のワークシートに毎時記入した学習の振り返りを確認し、自分の単元の学習を振り返る。	○	○		[評価] ○(知)教科書本文で学んだ語彙や表現、文法事項などを読み取る技能を評価する。 ○(思)英文を読んで概要や要点、詳細を整理して捉える力を評価する。

キ 授業実践例(5時間目/8時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	
1. 導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ウォームアップのための三つの帯活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・副教材の単語帳を使い、20語程度の単語とその日本語の意味をペアで確認する語彙学習</li> <li>・教科書付属の音声ファイルを用いて、前時に学習したパートの英文を各自でシャドーイング</li> <li>・日常的な話題についてペアでスモールトーク (帯活動への親しみを育む目的で、それぞれの活動を通称で呼ぶ。リスニング活動では再生する音声に適宜ポーズを入れながら取り組ませる。各活動5分ずつテンポよく進行する。)</li> </ul> </li> </ul>
2. 展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○リーディング活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の本文Part 3を読み、内容理解問題に取り組む。 (内容に合う写真を選ぶ問題や、概要や要点を表にまとめる問題といったInformation Transfer型の問題や、T/F問題に取り組ませる。)</li> </ul> </li> <li>○スピーキング活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の英文に関連する写真について、ペアで一人は写真を見ながら情報を話して伝え、もう一人は写真を想像しながら絵に描く。 (本文で学んだ単語やフレーズを使って写真を描写するよう指導する。ゴールタスクで、ポスターを示しながらSDG sについて情報や考えを説明するための練習であることを意識させる。写真の全体像を説明した後、細部を説明するよう指導する。)</li> </ul> </li> </ul>
3. まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴールタスクに向けた準備</li> </ul>



- ・教科書の英文からゴールタスクに役立つような語彙や表現、構成などを探しメモする。ペアで共有する。
  - ・ゴールタスクでSDGsのどのゴールを説明するか、どのアニメを通して説明するかなどを検討する。ペアで共有する。
- 本時の学習の振り返り
- ・ワークシートに本時の学習の振り返りを記入する。  
(本時の活動とゴールタスクとの繋がりを意識させる。)

研究実施校：神奈川県立七里ガ浜高等学校（全日制）

実施日：令和5年10月3日（火）

授業担当者：福田 晴都 教諭

## (2) 「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント

### ア ゴールタスクを見据えた単元の指導計画

本単元の教科書本文の主題はSDGsで、Thomas the Tank Engine を主人公とするアニメを通してそれを説明している。教科書本文とのつながりから、ゴールタスクとして、ポスターを示しながらSDGsの一つのゴールについて、自分が選んだアニメを通して説明するという課題を設定した。

単元の最初にゴールタスクについて説明し、学習の見通しを持たせた上で、リーディング活動に取り組みさせた。また、ワークシートに学習の振り返りを記入させ、自律的に学習を進められるようにした。

### イ リーディング活動

授業ではタスクを与えてのリーディング活動に取り組みさせた。具体的には、教科書本文全体や各パートの概要や要点を理解していることを確認するための Information Transfer 問題、T/F 問題などに取り組みさせた。また、ゴールタスクの発表に必要な情報や考え、使えるような語彙や表現、構成などを探させた(図1)。

**Read for the Goal Task**

How does the textbook describe each goal in this animation?

<p style="text-align: center;">&lt;Useful information&gt;</p>	<p style="font-size: small;">ゴールタスクの発表 で何をどのように真 似する？ 構成、内容、説明方法 に注目！</p>
---	---

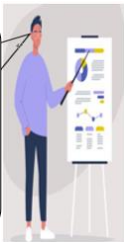


図1 ゴールタスクを見据えたリーディング活動（ワークシートの一部）

### ウ リーディングのテストアイテムの作成

本単元では ChatGPT を活用して、図2の指示で教科書の英文のトピックと同じトピックで、英文の概要や要点を捉える力を測るリーディングのテストアイテムを作成した。ChatGPT への指示の仕方工夫することによって、授業者の希望の語数、語彙レベル、トピック、構成の英文を生成することができ、テストに盛り込みたい内容、言語材料を含んだ授業で指導したことと一貫性があるテストアイテムの原案を作成することができる。語数の目安や内容などの要素を箇条書きで入力すると良いことが分かっている。

生成されたものは、語彙・文法のレベルが高すぎるが多く、「英語レベルをCEFR A1に調整してください」や「もう少し簡単な語彙を使ってください」など追加の指示を与えることで、レベルを調整することができる。ただし、正確にCEFRのA1レベルで生成されているか疑われるような場合もあるため、レベル調整の指示に関しては、さらに検証を続ける必要がある。また、今回は DeepL Write を用いて特定の語彙のパラフレーズを行った。

以下の条件を守って、CEFRのA1以下の英語で対話文を作ってください。

条件

- ・対話文は300 words 以内
- ・対話文は「A」と「B」によるもの
- ・会話の内容は「英語の授業でのプレゼンテーションについて」
- ・プレゼンテーションの内容は「SDGsの17個のゴールから1つ選び、身近な例を使って説明すること」
- ・「A」は「もののけ姫」を例に出してSDGsの「ゴール15」との関連性を説明すること
- ・会話の中で「もののけ姫」と「ゴール15」について簡単な概要を説明すること
- ・会話の中で「なぜその例を使おうと思ったか」を説明すること
- ・会話の中で「なぜそのゴールを説明しようと思ったか」を説明すること

## エ ペーパーテスト(リーディングテスト)

ウの手順で作成した英文と概要問題(4択選択問題)を使ってリーディングの評価テストを実施した。リーディングテストの事例は、総合教育センターウェブサイトにてダウンロードできる。(「高等学校英語教員のための評価事例集 聞くこと 読むこと編」)

図2 ChatGPTへの指示

### (3) 結果の検証

#### ア リーディングテストの結果

- (ア) 受験人数 : 75人
- (イ) 平均点 : 4.51 / 5点(小数点第3位を四捨五入)

#### イ 生徒へのアンケートの実施内容と結果

- (ア) 実施方法 : アンケート(4件法及び自由記述式)
- (イ) 調査人数 : 75名(英語コミュニケーションI)
- (ウ) 調査時期 : 12月初旬
- (エ) 質問内容と結果 : 質問項目1~4

質問項目1. 皆さんが一番伸ばしたい英語の技能は次のうちどれですか。

選択肢	聞く力	読む力	話す力	書く力
割合	9.3%	26.7%	61.3%	2.7%

質問項目2. 本単元のリーディング活動で学んだことは、ゴールタスクの発表に活かされたと思いますか？

選択肢	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	思わない
割合	34.7%	58.7%	5.3%	1.3%

質問項目3. 2の回答の理由を教えてください。

○「とても思う」、「まあまあ思う」と答えた生徒

- ・Lesson 6の本文の形を参考にすれば英語はあまりできない俺でもできたから。
- ・物語のどのようなことをSDGsに繋げるか想像しやすくなったから。
- ・リーディング活動をすることによって表現方法や文章の構成を学ぶことができ、それを元に自分の意見を作ることができたからです。
- ・話の入り方や説明の感じなどどのくらい詳しく書けばいいかどこをしっかりと説明してどこを簡単にまとめた方がいいか知れたからどんな構造にするかとか、話したいことの中で1番重要なところを相手に伝えるというポイントを知ることができたから。

○「あまり思わない」、「思わない」と答えた生徒

- ・練習になったとは言え元々の英語で話す力があまりないから。
- ・単語をみんなにわかるようにしたかったけど、それができないまま発表して伝わらないところがあったから。
- ・レッスン6で習った文法や高校で習った文法、表現などをあまり取り入れられなかった。
- ・活かされたと思うが、リーディングと発表は違うと思うので、発表練習ができたらいいと思った。

質問項目4. 読むことに関して何が難しいと感じていますか。

- ・知らない単語があったら一気に内容が分からなくなること。

- ・わからない単語が出てきたときに、まわりの文から意味を予想して読むこと。
- ・長文を早く正確に読むこと。

## ウ 考察

指導前のデータが無いため、生徒のリーディングの力が本単元の指導を通して伸びたかどうかを正確に把握することはできないが、リーディングテストの平均点が 4.51/5 点と高いことから、多少なりとも概要や要点をつかむ力がついたのではないかと考える。テストについて、「英文のレベルが簡単すぎた」という生徒の発言を聞いた。生徒の力を適切に見取るために、英文や設問のレベル調整が課題である。生成AIの活用は、いわゆる「初見の英文」の作成を手軽にする。今後は、生徒の力を適切に見取るためのテスト問題のレベル設定について、望む結果が得られる適切なプロンプト（生成AIへの指示文）の研究を深めていきたい。

アンケートの質問項目1より、26.7%の生徒が「読む力」の伸長を望んでいた。質問項目2「Lesson 6のリーディング活動で学んだことは、ゴールタスクの発表に活かされたと思いますか？」に対して、93.4%の生徒が「とても思う」「まあまあ思う」と回答した。また、質問項目3に「リーディング活動をすることによって表現方法や文章の構成を学ぶことができ、それを元に自分の意見を作ることができた」とのコメントがあり、本単元の指導で重視した「ゴールタスクを見据えたリーディング活動」が実施できたと考える。しかし、質問項目3に「リーディングと発表は違う」というコメントもあり、リーディング活動とゴールタスクの発表を全くの別のもので捉えている生徒もいたことから、ゴールタスクのエッセンスをリーディング活動により効果的に落とし込んでいく必要があると感じる。また、質問項目4に読むことの難しさとして「知らない単語」、「わからない単語」とあり、概要把握のためのトップダウン処理に関わる指導だけではなく、語彙や文法などのボトムアップ処理に関わる事項の指導についても意識したい。

## 3 まとめ

単元の指導の最初にゴールタスクを生徒と共有することは重要である。リーディング活動はそれだけで行い、ゴールタスクは単元のトピックだけを使って設定するといった分断された指導ではなく、ゴールタスクを見据えて単元の指導をすることが大切である。本実践では、ゴールタスクの発表を充実させるため、「読んで学んだことを発表に生かそう」という明確な読む目的を設定した。研究協議では、教科書の本文を使った「読むこと」の指導と、ゴールタスクの発表に直接効果がある「話すこと」の指導とを組み合わせる指導の工夫や、ゴールタスクの発表に向けた準備をある程度進めさせてからリーディング活動に取り組みせる手順の工夫についても検討した。ゴールタスクを見据えたリーディング活動の可能性は無限大にあるということを実感した。目の前の生徒を見つめ、どのような指導が効果的かこれからも考え続けていきたい。

生成AIを活用して作成する英文はこれからのテストアイテム作成に大きな可能性を与えると感じている。プロンプトの工夫やレベル調整、ファクトチェックなど教員が考慮することは多くあるが、効果的に活用すれば指導と一貫性のあるテストアイテムを作ることが可能であることが分かった。一人の教員だけではなく、学年、学校、県全体で知恵を出し合いながら、効果的な活用方法を研究していきたい。

■ 「話すこと」「書くこと」

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

「話すこと」「書くこと」における「思考力・判断力・表現力等」の指導法

(2) 研究のねらい

情報や考え、気持ちなどを、論理性に注意して話したり書いたりして伝える力を伸ばすため、ディベート活動を中心とした授業に、ライティング活動を活用する工夫について報告する。また、その授業デザインが生徒の学習への効果について検証し、今後に向けた課題の分析を行う。

2 実践事例

(1) 単元の指導と評価の計画

ア 科目名：論理・表現 I

イ 単元名：Unit 2 Lesson 3 経験談のスピーチ

(NEW FAVORITE English Logic and Expression I 東京書籍)

ウ 単元の目標：日常的話題や社会的な話題(在籍校への寄付金の用途)について、聞いたり読んだりしたことを基に、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができる。

エ 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと [やり取り]	[知識]情報や考えをやり取りするために必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 [技能]日常的話題や社会的話題についての情報や考えを論理性に注意してやり取りする技能を身に付けている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、在籍校への寄付金の用途についての情報や考えを、論理性に注意してやり取りしている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように、在籍校への寄付金の用途についての情報や考えを、論理性に注意してやり取りしようとしている。
書くこと	[知識]情報や考えを書いて伝えるために必要となる語彙や表現等を理解している。 [技能]日常的話題や社会的話題についての情報や考えを論理性に注意して書いて伝える技能を身に付けている。	読み手に自分の考えをよく理解してもらえるように、在籍校への寄付金の用途についての情報や考えを、論理性に注意して書いて伝えている。	読み手に自分の考えをよく理解してもらえるように、在籍校への寄付金の用途についての情報や考えを、論理性に注意して書いて伝えようとしている。

オ ゴールタスク (パフォーマンステスト)

・話すこと [やり取り]

在籍校への寄付金の用途について、論理性に注意してディベートを行う。

・書くこと

在籍校への寄付金の用途についての自分の考えを、論理性に注意して書く。

カ 単元の指導と評価の計画(13時間)

(○…「記録に残す評価」 ●…「指導に生かす評価」)

表中「○」「●」が付されていない授業においても、指導の改善や生徒の学習改善に生かすために、生徒の学習状況を確認する。) )

時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1 ・ 3 ・ 5 ・ 7 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の目標を確認し、ポートフォリオに、自己の単元目標を書く。</li> <li>日常的な話題(宿題、制服、Teams、アルバイト)について、教科書の英文や関連する話題を扱ったテキストを聞いたり読んだりして、概要や要点を捉え、ディベートに必要な情報を得る。</li> <li>語句や表現、文法事項を理解する。</li> <li>それぞれの話題に関連する論題について、2分間でブレインストーミングを行い、8分間で賛成意見と反対意見の両方を書く(「10-minute writing」)。</li> <li>書いたものを提出する。</li> <li>返却後、評価を参考にして第2稿を書く。</li> </ul>		●	●	<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スマートフォン等を使わず、自分の言葉で表現させる。論理性を意識し、具体例等を書くよう指導する。</li> </ul> <p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(思)(態)グローバルエラーには線、その他の改善が必要な箇所には波線を引く。</li> </ul>
2 ・ 4 ・ 6 ・ 8 ・ 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な話題(宿題、<b>制服(本時)</b>、Microsoft Teams、アルバイト)について、グループ内でディベートを行う。</li> <li>グループごとに全体の前でディベートを行う。</li> </ul>		●	●	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(思)(態)グループごとのディベートについて、全体へ向けて主に論理性に関わる内容的フィードバックを行う。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>在籍校への寄付金の用途についての情報を収集し、自分の考えを整理してまとめる、ディベートの準備をする(ブレインストーミング)。</li> </ul>				<p>[指導]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理性を意識し、具体例等を述べられるよう準備させる。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴールタスク(パフォーマンステスト)</li> <li>話すこと [やり取り]</li> <li>在籍校への寄付金の用途について、論理性に注意してディベートを行う。</li> </ul>	○	○	○	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○(知)(思)(態)ルーブリックに基づいて評価する。</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ゴールタスク(パフォーマンステスト)</li> <li>書くこと</li> <li>在籍校への寄付金の用途についての自分の考えを、論理性に注意して書く。</li> </ul>	○	○	○	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○(知)(思)(態)ルーブリックに基づいて評価する。</li> </ul>
後日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ポートフォリオに単元の学習の振り返りを記入する。</li> </ul>			○	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○(態)ポートフォリオの記述から学習への取組状況を評価する。</li> </ul>

キ 授業実践例(8時間目/13時間)

学習活動(指導上の留意点を含む)	評価の観点
<p>1. 前時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ライティング活動「10-minute writing」</li> <li>ディベート活動の論題について2分間のブレインストーミングを行い、8分間で賛成意見と反対意見の両方を書く。</li> <li>論題: School uniforms should be required in Kibogaoka High School. (スマートフォン等を使わず、自分の言葉で表現させる。論理性を意識し、具体例等を書くよう指導する。)</li> <li>書いた文を提出し、主に正確さについての添削を受ける。返却されたら、ディベート活動の授業までに自宅等で書き直しを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(思)(態)グローバルエラーには線、その他の改善が必要な箇所には波線を引く。</li> </ul>

(グローバルエラーには線、その他の改善が必要な箇所には波線を引いて返却する。)	
<p>2. 本時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ディベート活動、1回目、各グループ内で <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成意見担当2名、反対意見担当2名の役割を各グループで確認する。</li> <li>・1セッション1名につき2分間のスピーチ×4名、計8分の時間配分を確認する。</li> <li>・聞き手は、話し手の主張の要点を Google Jamboard にメモする。話す時は自分のメモを見ながら話す。 (観察し、適宜、英語の表現や論理性等について助言する。)</li> <li>・授業者からの全体へのフィードバックを聞き、自分の主張を整理する。 (賛成反対両者の主張の要点を Google Jamboard で全体に共有し、論点等を確認する。2回目のディベート活動で、より説得力のある議論を組み立てるため、発言に向けて詳細な計画を立てさせる。)</li> </ul> </li> <li>○ディベート活動、2回目、各グループ内で <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの組合せを変え、1回目と同じ活動を行う。</li> </ul> </li> <li>○振り返りのためのディベート活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者が選んだ代表グループの生徒が再度ディベート活動を行い、他のグループの生徒は観覧する。</li> <li>・活動の振り返りを行う。 (主張に対する具体例の質や、情報や考えが論理的なつながりとなって伝えられているかなどについて、生徒の発言を促す。生徒とやり取りをしながら助言する。考えを伝えるための適切な語彙や表現等についてのフィードバックを行う。)</li> </ul> </li> <li>○ポートフォリオの記入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習の振り返りを記入する。 (自分にはどのような力が足りないのか、どのような学習が更に必要かなどを自ら考えられるよう支援する。)</li> </ul> </li> </ul>	<p>●(思)(態)グループごとのディベートについて、全体へ向けて主に論理性に関わる内容的フィードバックを行う。</p>

研究実施校：神奈川県立希望ヶ丘高等学校(全日制)

実施日：令和5年10月31日(火)

授業担当者：大塚 聖 教諭

(2)「指導と評価の一体化」の視点を踏まえた主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価のポイント  
ライティング活動を活用して、論理的に話す力を伸ばすことを目指す授業デザインを実践した。ディベートなどのスピーキング活動の準備としてライティング活動に取り組みせ、話したり聞いたりする内容についての予測が立っている状況を作ることで、スピーキング活動の際は、生徒の関心が「話して伝えること」に向くことが期待できる。このことから、スピーキング活動の前にライティング活動を行うことは、効果的に話す力を伸ばすことを可能にすると考えた。以下に、本単元における授業デザインの工夫について示す。

#### ア ディベート活動の前のライティング活動

単元の目標「情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができる」を踏まえ、ディベート活動の準備としてライティング活動に取り組みさせた。この授業デザインによって、ディベート活動で論理的に自分の主張を展開し、自信を持って自分の言葉でやり取りできるようになる効果が期待できる。「論理・表現 I」の授業で年度の初めから継続的にこの授業デザインを採用した。書いた英文は、ディベート活動の前までに書き直しをさせるので、速やかに線を引くだけの添削をして返却し、グローバルエラー等については授業で繰り返し説明した。

##### ○「10-minute writing」

- ・内容：ディベート活動と同じ論題について、2分間でブレインストーミングを行い、8分間で賛成意見と反対意見の両方を書く。スマートフォン等を使わず、自分の言葉で表現する。一度提出し、授業者の添削を受けて、ディベート活動の前までに書き直しを行う。
- ・添削：グローバルエラーには線、その他の改善が必要な箇所には波線を引く。(指導に生かす評価)

#### イ ディベート活動

事前に行ったライティング活動により、ディベートの展開に予測が立っている状況で、2回のディベート活動に取り組みさせた。相手を変えた2回目は、1回目うまく伝えられなかったことを改善するための試行錯誤の場とした。ディベート活動後の振り返りの際に全体で共有するため Google Jamboard を活用して聞いたことの要点についてメモを取らせた。振り返りでは、主に論理性についてのフィードバックを行った。

### ウ スモールステップを意識したディベートの指導

論理性に注意して話して伝える力の育成を目指してスモールステップを意識した指導を行った。まず YouTube でディベートを視聴し、「何が難しかったか」を生徒と共有した。「聞き取ることが難しかった」という生徒の声から、英語を聞いてメモを取る練習と取り方の指導を行った。生徒の実態に合わせて、必要なステップを踏めるようにした。

#### ○スモールステップを意識した指導の例

- ・メモの取り方を指導し、相手の話を聞きながらメモを取る練習を行った。
- ・論証の構造や論理的な反論の型について指導し、日本語で説得力のある反論をする練習を行った。
- ・反論で用いられる英語の表現を指導し、英語で反論する練習を行った。

### エ ICTを活用したディベートの指導

思考力・判断力・表現力等の効果的な育成のために ICT を活用してディベートの指導を行った。ICT の利点として、生徒が何度でも振り返ることができる点と、教員が生徒の取組を評価し、指導に生かすことができる点が挙げられる。

#### ○Google Jamboard の活用

- ・論点についてブレインストーミングを行う。
- ・ディベート活動で他者の主張の要点をキーワードでメモする。
- ・ディベート活動で聞いて分からなかった単語や自分が言えなかった表現についてメモする。

## 3 アンケートの検証

### ア 実施内容と結果

- (ア) 実施方法 : アンケート(4件法及び選択式)  
(イ) 調査人数 : 57人(論理・表現I)  
(ウ) 調査時期 : 12月初旬(本単元終了後)  
(エ) 質問内容と結果 : 質問項目1～5

#### 質問項目1. 「10-minute writing」を通して書く自信ができましたか？

選択肢	かなりそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
割合	18%	64%	16%	2%

#### 質問項目2. 「10-minute writing」を通して4月と比べて書ける量が増えましたか？

選択肢	かなりそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
割合	39%	54%	5%	2%

#### 質問項目3. 「10-minute writing」で学んだことをディベートにいかすことができましたか？

選択肢	かなりそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
割合	11%	64%	21%	4%

#### 質問項目4. ICTを活用することで、自身の考えを深めることができましたか？

選択肢	かなりそう思う	そう思う	あまり思わない	思わない
割合	9%	61%	25%	5%

#### 質問項目5. 「10-minute writing」を通して最も身に付いた力は何ですか？一つ選びなさい。

選択肢	トピックについて自分の考えをもつこと	様々なトピックについての考え	自分の考えを伝える表現力	論理性に注意して書く力
割合	12%	25%	47%	16%

### イ 考察

質問項目1の結果より、「10-minute writing」を通して書く自信がついた(「かなりそう思う」と「そう思う」)と回答した生徒の割合が82%、質問項目2の結果より、「10-minute writing」を通して4月より書ける量が増えた(「かなりそう思う」「そう思う」)と回答した生徒の割合が93%であり、「10-minute writing」が、書く力の伸長に寄与したと生徒が強く実感していることが分かった。

質問項目3の結果より、「10-minute writing」で学んだことをディベートにいかすことができた(「かなりそう思う」と「そう思う」)と回答した生徒の割合が75%であり、ライティング活動が話す力の伸長に寄与したと生徒が実感していることが分かった。

質問項目4の結果より、ICTを活用することで、自身の考えを深めることができた(「かなりそう思う」「そう思う」)と回答した生徒の割合が70%であった。効果的にICTを活用し、自身の考えを深めること

ができたこと、より多くの生徒が実感できるよう工夫が必要である。

質問項目5の結果より、「10-minute writing」を通して最も身に付いた力として「論理性に注意して書く力」を選んだ生徒は16%に留まったが、「自分の考えを伝える表現力」と答えた生徒が半数(47%)近くおり、引き続き、論理性に注意する書き方の指導を続けていけば、さらなる効果が期待できる。

#### 4 まとめ

生徒が「情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり書いたりして伝えることができる」という目標達成のために、ライティング活動とディベート活動を組み合わせて単元をデザインし、授業を実践した。事後のアンケート調査の結果からは、生徒が論理性の高まりを実感しているとは言えないが、生徒の書いた文やディベート活動での発話には、for example などの表現を用いて具体例を示したものや、therefore などの表現を用いて文章の流れや構成を意識したものが以前より増えており、着実に効果は表れていると感じる。

今後の課題としては、「話すこと」と「書くこと」の技能を結び付けた統合的な言語活動を、さらに充実させる必要がある。また、論理的な思考力を育成するためにICTを活用した指導を工夫し、ライティング活動やディベート活動を行った後のフィードバックの質を向上させることも今後の課題である。これらの課題の改善に向けて、これからも研究を続けていきたい。